

石屋のイロハ(6)

第6号(夏号)に紹介させていただいた磨きに付いてもう少し書かせていただきます。

私が石屋を継ぐため見習(弟子)に行った頃(昭和43年)ようやく、石屋にも機械化が始まって来た頃でした。石を切る、石を磨く、石を削る、文字彫りなど、石を磨くとは前回の号にも紹介させていただきましたが、多くの時間と根気と長く培って覚えた技が必要です。古代の人の宝物(装身具の一種)である勾玉(まがたま)、それも大変硬い翡翠(ひすい)の勾玉はまだ満足な道具も無い時代にあそこまで精巧な形に作り上げ翡翠本来の価値を引き出すために磨き上げた技は現代の石を磨くそれに通じていると思います。



↑従来石の磨きに使用していた「角砥石」 粒度を示す番数は現在と同じ。



↑「角砥石」を3つ固定し、モーターで回して研磨していた時代の工具。



↑現代の石材研磨用砥石。粒度によって素材と形状が違っている。

石を磨き光沢を出す技は古代も現代も変わらない。変わっているのは砥石の質と機械の導入と進歩だと思います。石を磨く基本は同じ磨く石の面(つら)の凸凹を1番荒い砥石でなくす(すりおろす)。その荒い砥石のスジを次の砥石ですりおろす。その工程を8回繰り返す。砥石の種類は80・100番(荒番)、200番、400・500番、800番、1000番、2000番、3000番、バフ(ツヤ砥石)があります。番数が大きくなると砥石のスジは細かくなります。

最後には人の目でも見えないくらい細かなものになり鏡の様な光沢が出るのです。どの番数の砥石も飛び越す事は出来ません。そして前の砥石のスジを残したまま次に進むと最後までそれは消えることなく光沢にもくもりが残り鏡の様な光沢にはならないのです。これは手磨きでも機械で磨いても、ロボットで磨いても同じです。最後は長い経験で培った人の目と技がその鏡の様な光沢を生み出すのです。

また次回の石屋のイロハもお楽しみに。

【齋藤 繁樹】

暮らしに石を(6)

今回は「カードホルダー犬」(大理石製)のご紹介です。犬の口にカードやメモを挟むことができるので、ご自宅の玄関やキッチンなどに置いて、家族へのメッセージを挟んでおくと、便利でとてもかわいいです。店舗では名刺などを挟んで店頭にも置いてもらうのもアリです！



編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。一面でご紹介のありました通り、この度代表取締役になりましたが、編集長でもあります。ニュースレターに関しては皆様に楽しんでいただける紙面を目指して参りますので今後ともよろしくお願い致します。ではまた。

【齋藤 勇介】

このニュースレターに関するお問い合わせ・ご意見・ご要望はこちらまでお願いします。お届け先の変更や、ニュースレター送付不要の際もお知らせいただければ幸いです。(担当: 齋藤 勇介)

(有) 齋藤石材店 〒950-3321 新潟市北区葛塚4804 Tel:025-386-3491 Fax:025-386-3493 E-mail:saitougs@beach.ocn.ne.jp ホームページ:http://www.saitougs.com/



夏の猛暑、なじにお過ごしてはいかがでしょうか？
6月18日に大阪府北部の地震、7月に西日本豪雨、その後各地での猛暑(三条では40.6℃を記録)、9月6日には震度7の北海道全域に被害をもたらした地震にみまわれました。災害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。葛塚祭りも終わり、秋を感じる季節になりました。皆様にはそれぞれ「小さな秋」を見つけ感じていただき、実りの秋を楽しんでいただける様願っております。

2018年9月をもちまして、当社の代表取締役社長が交代いたしました。この場をお借りしてご報告致します。

社長交代のお知らせ



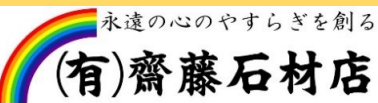
代表取締役会長 齋藤 繁樹

昭和43年春より家業の石屋を継ぐため、5年間弟子に行きました。それから50年、節目の年を迎えました。その間常に石屋業の修行をさせていただき、石屋の楽しさ、面白さも味わわせていただきました。この節目の年に次の代に引き継ぎ、私はまだまだ石屋の楽しさを探してみたいと思います。大変長い間誠に有り難う御座いました。又、新社長に代わりまして今まで同様お引き立てよろしくお願い致します。



代表取締役社長 齋藤 勇介

平成16年に家業を継ぐために戻って来て以来、現場作業、工場作業や加工の事、お客様との打合せなどを経験させてもらい、石屋の事を一通り学ばせて頂きましたが、自分自身まだまだ未熟であると実感しています。日本は今後様々な変化を求められる事となる様に感じておりますが、時代の流れに乗り、皆様の心のやすらぎを創り出せる様精進して参りますのでよろしくお願い致します。



ホームページ: <http://www.saitougs.com/>
E-mail: saitougs@beach.ocn.ne.jp

齋藤石材店 新潟 で検索

本社・工場
新潟市北区葛塚(正尺)4804
日本海沿岸東北自動車道
豊栄新潟東港I.C.すぐ近く
Tel: 025-386-3491
Fax: 025-386-3493



太平店
新潟市東区太平2丁目1-31
国道113号沿い
新潟空港の目の前です
Tel/Fax:
025-275-9638



誰も教えてくれないお墓の力(ちから) 今野栄一朗 著

第4号で紹介させていただきましたこの小冊子について、1章ずつ内容を抜粋して連載しております。

第3章 人はなぜ、死者を埋葬し冥福を祈ろうとするのか

お墓の歴史はとても長く、約20万年前に出現したとされるネアンデルタール人が死者を埋葬したように、「死者には魂がある」という考え方は石器時代には生まれていたと考えられます。

一般的な解釈は、「死者には魂があり、それを供養することで魂が天上界に行ける」と思われるようになりました。そして、さまざまな儀式や宗教が形を変えながら世界に広がって行ったのです。その後も「死者の冥福を祈る」行為は数万年に及ぶ長き間、途絶えることなく現代まで続いています。

人間は国や民族で、考え方や価値観も違います。生まれ育った環境もまったく違います。また、宗教観やその教え、儀式のやり方もさまざまに違います。なのに、死者の供養をまったくしない国は、世界中どこにもありません。不思議なことに、私たち人類は「死者には魂がある」ことを共通の認識として、無意識に信じているのだと思います。

日本では、お盆にお墓参りをすることが習慣になっています。多くの方がお墓参りをしたり、お仏壇を飾ったり、お寺さんにお参りを頼んだりします。私たち石材業者にも「お盆までに新しいお墓を作ってくれ！」という注文が殺到します。

しかし、なぜ、お盆にこだわるのでしょうか？

私たちは子供のころから「人が死ぬと魂は天上界に行き、亡骸は土に帰る」と言われ、「お盆には、亡くなった人の霊が戻って来るから」とお仏壇に手を合わせたり、お墓参りをするように教えられてきました。皆さんも同じような認識をお持ちだと思います。

「お盆には、亡くなった人の霊が戻って来るから」と、疑いもなく普通に会話をしているということは、やはり私たちは「死者には魂がある」と自然に思っているのだと思います。

この冊子の紹介はこの先も続きます。お読みいただくと新たな気づきが得られ、とても腑におちる話と思います。どうぞ期待下さい。

※冊子をご希望の方はお気軽にご連絡ください。

石で遊ぼう！石で学ぼう！開催報告

第6号で告知しておりました『第二回 石で遊ぼう！石で学ぼう！』を2018年8月11日(土・祝)に開催しました！

昨年に続き、今年も夏休みに石に触れあってもらい、石で学べるイベントを開催しました。今回は一輪差しやミニ石灯籠を作る「石ころ工作」に加え、石に絵や文字を彫刻する「彫刻体験」も行い、「石の磨き方」も見学していただきました。参加された皆様には楽しんでもらえて良かったですが、もっと楽しんでもらえる様にしていきます。来年もご期待ください！



秋分の日は「お墓参りの日」

皆さんはご存知でしょうか？

秋分の日は、“お墓参りをするため”として法律で決まった祝日なのです。

秋分の日、1948年に公布・施行された国民の祝日に関する法律によって「祖先をうやまい、亡くなった人々を偲ぶ。」ことを趣旨として制定されました。

秋分の日を中心とした一週間を「秋彼岸」といい、家族そろってお墓参りをしたり、祖先を供養する行事が催されています。

今年の秋彼岸には皆様でお墓参りに行かれたでしょうか？

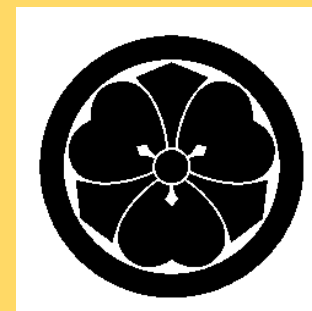


家紋って！？

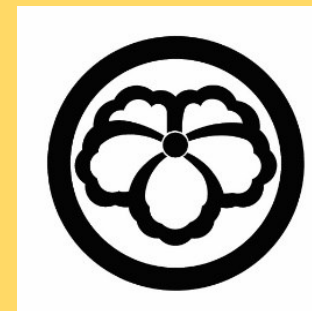
日本には「家紋」と呼ばれる日本特有の紋章があります。お家ごとに異なる家紋は、古くより出自といった自らの家系、血統、家柄、地位を表すために、古くは武具などに用いられ、次第に着物や提灯、瓦や仏壇などに用いられてきました。お墓にも彫刻されている事があり、当社では分かるのであれば残せるようにと彫刻をお勧めしています。当店のお客様の中で多い家紋ベスト3を紹介すると、



1. 丸に木瓜
(まるにもっこ)



2. 丸に剣片喰
(まるにけんかたばみ)



3. 丸に影蔦
(まるにかげつた)

家紋は細かな違いで異なる紋になります。例えば上記のどの家紋も、丸い枠が有るか無いかで異なる家紋となります。(「丸に木瓜」と「木瓜」、「丸に剣片喰」と「剣片喰」、「丸に影蔦」と「影蔦」)

「丸に木瓜」のお家で有名な方では、沖田総司、樋口一葉、三船敏郎、桂歌丸、アントニオ猪木 などがおられます。由来は、瓜の輪切りや鳥の巣の形からなどとされ、子孫繁栄の意味が込められていると言われています。このように、お墓には家紋をはじめ古くからの歴史が刻まれ継承されていることがわかります。【小林絵里子】

新入社員のご紹介

この度、新しいスタッフが増えましたので、ご紹介致します。
お見知りおきいただけます様よろしくお願い致します♪

営業 小山泰弘(こやまやすひろ)

この度ご縁がありましてお世話になる事になりました。仏事の事ははじめ、どんな事でもご相談ください。精一杯対応させていただきます。今後ともよろしくお願い致します。

【小山泰弘】



事務 内山洋美(うちやまひろみ)

9月中旬から事務員として入りました内山です。これからたくさん仕事を覚え、お客様に喜んでもらえる様、精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します！

【内山洋美】

